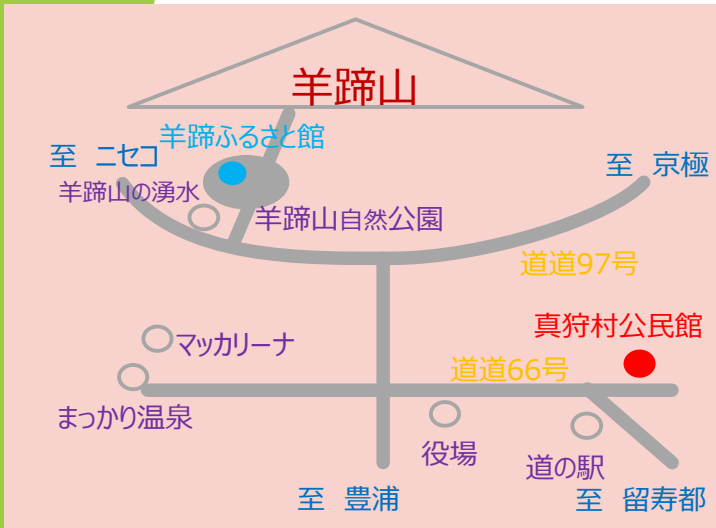
ご案内



■所在地　〒048-1605　虻田郡真狩村字光４番地
真狩村公民館

■交通アクセス所在地

○自家用車
・札幌からは国道230号線（中山峠経由）で1時間半～2時間程度
・千歳からは道道16号線と国道276号線（美笛峠経由）で1時間半程度

○公共交通機関
・JR倶知安駅から留寿都方面道南バスに乗り、「真狩公民館」バス停下車
・札幌からは洞爺方面行のバスを「留寿都」で下車し、倶知安方面行きのバスに乗り換え、「真狩公民館」バス停下車
・「真狩公民館」バス停から徒歩約３分

■問合せ先

〒 048-1611
虻田郡真狩村字光4番地
真狩村公民館内

真狩村教育委員会　社会教育係
TEL　0136-45-3336　　FAX　0136-45-3338

ポチの案内（解説）書

名　前	ポ　チ
性　別	雌
犬　種	アイヌ犬
生年月日（拾われた日）	明治43年(1910年)夏初め、月日は不詳
身長・体重	高さ　40cm、長さ　70cm、体重　四貫二百匁（約16kg）
出生地（拾われた場所）	北海道真狩村　トマト畑の脇で拾われた。
飼い主	村上政太郎（むらかみ　せいたろう） 真狩村郵便局勤務（1917年（大正6年）に郵便局長就任） 1918年（大正7年）1月16日支給電報配達中に殉職 ※政太郎さんが亡くなった後、息子正男さんが局長となる 飼主期間：約7年 拾われた日～大正8年(1919年)5月初
	札幌報恩学園（さっぽろほうおんがくえん） 園長　小池九一（こいけ　きゅういち） 飼主期間：約7年半 大正8年(1919年)5月初～昭和2年(1927年)12月4日
命　日	昭和2年(1927年)12月4日没　（年齢17歳）

忠　犬　ポ　チ　の　物　語

公民館の玄関を入ると、真正面にはいくつかのガラスケースが並んでいます。その一つに、小さな白い犬の剥製があります。人々の心を励まし続けたその犬の名は「アイヌ犬ポチ」。現在はあまりにも小さく、愛らしい姿ではありますが、かつて日本のほとんどの家に電話がなく、電報がもっとも早い伝達の手法であった中、暴風雨や吹雪、おいはぎで命を落とす郵便屋さんがとても多かった時代のエピソードです。

真狩郵便局の局長さんが、自ら愛犬ポチを連れ、一里余り離れた知来別まで配達に出かけました。しかし途中で猛吹雪に合い、倒れてしまった局長さんを必死で守ろうと猛吹雪と戦い、村の人に知らせようと郵便局や自宅まで戻り、足に血がにじむほど扉にぶつかり危機を知らせようとしたポチ。猛吹雪の音で打ち消され、誰にも気づいてもらえず、再び、主人の元へ戻り、一晩中主人を温め続けましたが、残念ながら翌朝、局長さんは亡くなられた状態で発見されたという実話です。この果敢で忠義を尽くす姿は、村の人々の歴史として後世まで語り継がれ、現在、ポチの剥製は、村の文化財として公民館に展示されています。

ポチの余生は、「札幌報恩学園」でアイドル的な存在となり、子どもたちを見守り続け、17歳、人間でいう100才のおばあちゃんになるまで生命を全うしましたが、昭和2年12月4日、7年半を過ごした学園の子どもたちに見守られながら、眠るように天国へ旅立っていきました。郵便局長さんを命がけで守り、学園の子ども達に生きる勇気を与えてくれたポチをなんとか残すことはできないかと、ポチを剥製として残すことになりました。そのことを知った当時の逓信総合博物館の館長さんが、「ポチは郵便の歴史に残る、素晴らしい犬です。ぜひとも博物館に展示して、広く日本全国の人に、こんな苦労の時代があったことを知ってもらいたい」と東京の逓信総合博物館に展示されることになりました。

それから月日が経ち、ポチとの対面を楽しみにしていた真狩高校生たちが修学旅行で東京を訪れ、「この名犬は雪が大好きだった。真狩村につれて来るべきだよ。」とみんなの意見がまとまりました。念願が叶い、ポチはなんと70年ぶりにふるさとに帰って来たのです。

ふるさとの雪が「ポチ、帰っておいで」と呼び寄せたのかもしれないと、いくつかの本となって、今も公民館の図書館に置かれています。ぜひ、お読みになっていただければ感動もひとしおです。

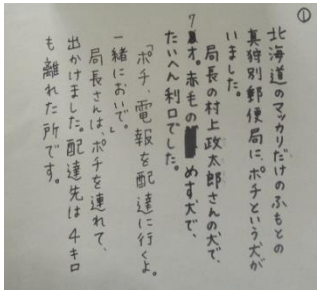
＜真狩村 羊蹄ふるさと館＞
忠犬ポチのご案内

今、ポチは剥製になって、
真狩公民館に展示されてるヨ！

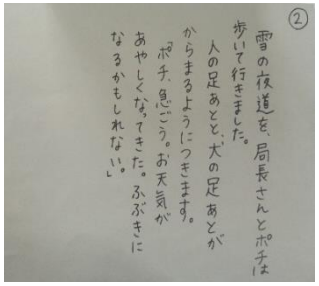
会いに来てくださいネ。
待ってま～す。

ゆり姉が伝える昔あった本当の話　【忠犬ポチ物語】

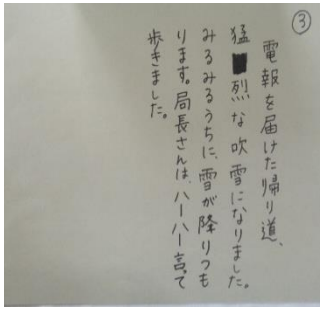
①



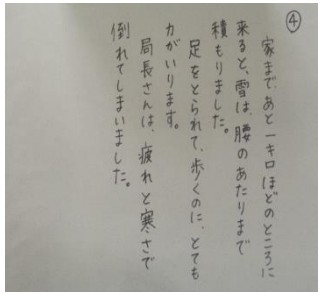
②



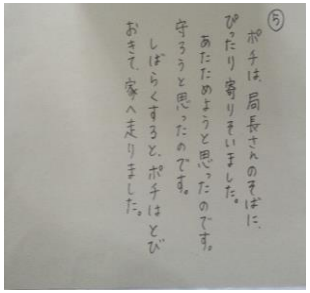
③



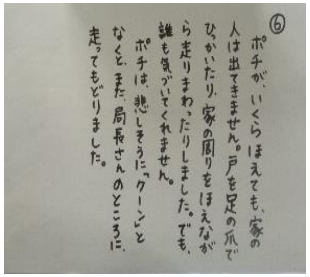
④



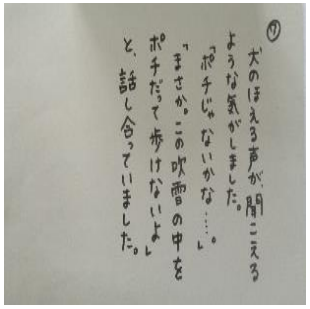
⑤



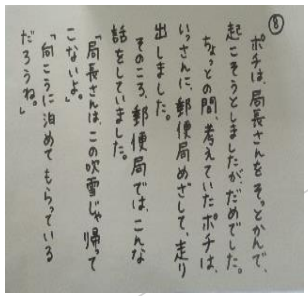
⑥



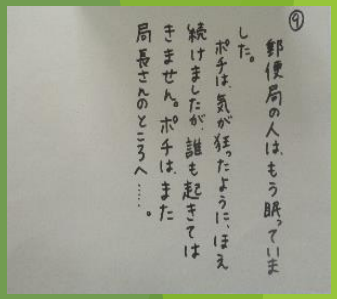
⑦



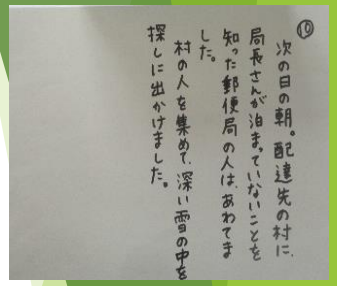
⑧



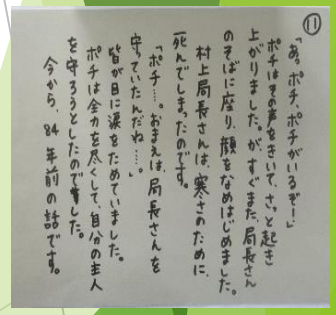
⑨



⑩



⑪



ポチ、頑張ったネ、
えらかったネ。